

こぶし通信

Vol.61
2024.12



社会福祉法人こぶしの会

〒630-8424 奈良市古市町529-4

電話 0742-63-6765 FAX 0742-63-6766

e-mail/kokkara@kokkara.jp <http://kokkara.jp/>

発行責任者/坂下 伸一

Column

本物の文化・芸術に出会う

社会福祉法人こぶしの会 理事長 坂下 伸一

歌舞伎観劇

40年近く前のことです。初めて歌舞伎を京都南座に見に行きました。12月の「顔見世」興行でした。出演者で唯一思い出すのは、今は片岡仁左衛門となっている片岡孝夫です。後は誰が出ていたかは全く覚えていません。なぜ覚えているかというと、一緒に行った職場の女性の同僚が片岡孝夫を見に来たと熱心に話していたからです。初めて見た私は、面白いとは思えなく、言葉も分かりにくく、どちらかというと「みなさん熱心によく見ているよね」と冷ややかに見ていたように記憶しています。そうそう、もう一つ記憶に残っていることは、私は、3階席から見ていたのですが、1階席に、着物の姿の日本髪的女性が結構多くいて「さすが京都だなあ〜」と見入ってしまったことです。

さて、それから20年ほどたって、パートナーに連れられ、仕方なく大阪の松竹座に歌舞伎を見に行きました。初めての時に比べ、大きく印象が変わることになりました。まず、言葉が分かり易くなったことです。また、昔ながらの演目だけでなく、新しい演目も取り入れていました。これは、歌舞伎の側も、多くの人に見てもらうための努力をしているのかもしれませんが。そんなこともあったのでしよう、舞台に見入ってしまいました。そうすると役者さんの演技だけでなく、衣装や背景のすばらしさにも気づきました。作者や演出者も含め、歌舞伎は総合的な芸術だと強く思うようになりました。それから、年に3〜4回は歌舞伎に行くようになってしまいました。

美術館・博物館めぐり

今年のこっから祭が終わった後、年末で忙しくなるだろう前に、1泊2日で滋賀県に美術館・博物館めぐりに行きました。1日目は信楽に、日本で稼働している中で一番大きいと言われる登り窯を観た後、陶芸の森に寄ると、ちょうど東南アジアの陶器展が行われていました。ベトナムやタイ等の東南アジアの陶器が中国の影響を大きく受けているとのことでした。お昼を済ませて、信楽の山中にある「ミホミュージアム」に行きました。このミュージアムには、エジプト、中国・西域、南アジア、西アジアなどのコーナーがあり、それぞれの地域の古代文明の美術品が展示されています。日本では縄文や弥生時代であり、その展示品の美

しさ、細やかさに驚かされるばかりです。

2日目は、守山市の琵琶湖のほとりにある「佐川美術館」に足を運びました。佐川美術館は、その名の通り「佐川急便」が作った美術館です。画家の平山郁夫、彫刻家の佐藤忠良の作品が常設展示されている美術館です。完全予約制になっており、予約時間より早く着いたのですが、今日は空いているとのことで、待つことなく入場させてもらいました。

平山郁夫といえば薬師寺の壁画を思い浮かべるでしょう。それとシルクロードを描いた絵は有名です。佐川美術館では、シルクロード関連の作品だけでなく、世界各地に出かけ、描いた人物、風景があり、飲み込まれてしまいます。

佐藤忠良は、福音館の絵本「おおきなかぶ」の挿絵、小学校1年の国語の教科書にも出ているので知っていたのですが、彫刻家です。我が子をモデルにして作った子どもの彫刻に惹かれました。秋の日、こころ豊かに過ごした2日間でした。

本物の力

実は、私自身は子どものころから描いたり、演奏したりすることは大の苦手で、演劇や音楽鑑賞、美術展に行くことなどは、ほとんどありませんでした。正直どこが良いか分かりませんでした。ただ、美術展については、高校時代に美術好きな友人がいて、無理やり連れていかれました。歌舞伎観劇も同じです。しかし、本物に出会うと、苦手であることを忘れ、こころが動いてしまいます。本物の文化・芸術の凄みでしょう。文学やスポーツでも同じです。私の経験から、すべての人が生きることの喜びを感じるためには本物に出会う機会が必要だと思います。みんなで力を合わせ、所得や自由な時間を保障する条件づくりをする



能登半島被災地支援活動報告



9/1(日)～7(土)の一週間、能登半島支援に参加しました。

主な支援内容は、①職員が転居を余儀なくされ離職し、人手不足になっている輪島市にある「障害者施設支援」 ②道路状況が悪く、公共交通機関が使えないため通院等につきそう「移動支援」 ③障害のある人がくらす半壊の家などの「片付け支援」の3つに分けられます。



その2週間後に奥能登を襲った豪雨災害…。

こぶしの会では募金活動はじめ12月と3月にも被災地支援に職員派遣を行います。

詳しい活動内容は「JDF 能登半島被災地支援センター」ホームページをご覧ください。

文責：
島 耕治



法人全体研修報告

8月24日の法人全体研修では、午後のプログラムで、全障研奈良大会で報告した4本のレポート【分科会「はたらく」(木村洋司&西口祐史さん、松田加奈さん&中野聰子さん)、分科会「仲間の発達とくらし」(川野美幸さん、竹田悦子さん)】に学び合いました。

日々の営みが綴られたレポートをもとに研修することで、同じ事柄でも違う視点から見ると意味合いが違うことに気づけたり、新しい価値を見出せたりしました。自分たちで学びを創ることの良さが感じられ、来秋のきょうさん奈良大会もこうした場にできればと思いました。

文責：山室光生

12月の法人研修は、このようなことを学びました。

講義① 「パターナリズムとは…」

講師：山下 史子さん

(社会福祉法人さつき福祉会 ヘルパーステーションマヨ 主任)

国連の障害者権利委員会は、総括所見で、「国の施策はパターナリズム(父権主義)的アプローチだ」と批判し、人権モデルに変えるよう勧告しました。

優生保護法を違憲とした今夏の最高裁判決において、優

生思想と向き合う契機となりました。パターナリズムとの関係を浮き彫りにし、山下さんのドイツ研修のご経験を基にT4作戦(ナチス障害者虐殺)についてもお話しいたされました。

講義② 「ジョイアススクールspaceの実践から」

講師：竹内 亮太さん

～自己選択・自己決定の保障、その人なりの尊重が「本領発揮」を生み出す～

2024年全障研全国大会レポート発表より
安心安全をベースに、認め合える自分づくり・仲間づくりを目指した実践で得られたものとは…？選択・決定をする際、支援者の態度によって仲間がどのような影響を受けるでしょうか？実際の楽しい実践を通して「介入・干渉」することの是非について日々の支援者としての葛藤も交え、お話しいたされました。

きょうされん全国大会に参加

ここすた NEWS

ここにとすたあと、9名の仲間と職員3名とで、「きょうされん全国大会inしが」に参加してきました。オープニングでは滋賀県内のゆるキャラ達も登場して盛り上がりしました。

その後みんなで歌を楽しむグループと、踊りを楽しむグループに分かれ、それぞれ楽しい時間を過ごしました。

終わってからはみんなで予約していたお店に行って夕食を食べ、ホテルに移動しました。

初めて一人でホテルに泊まる仲間もいましたが、みんなと大浴場を楽しんでいました。

2日目は、「はたらく」「くらす」「たのしむ」といった分科会に分かれて参加しました。私は3名の仲間と「くらす」の分科会に参加しましたが、3人ともとても積極的で、熱心にメモを取ったり、発言したりしていました。来年は奈良で全国大会が行われるということで、分科会の最後に奈良を代表して、仲間の一人が全国の皆さんの前で奈良大会をアピールしてくれました。

いよいよ奈良大会まで1年を切りました。みんなで協力して奈良大会を成功させましょう！ 文責：新谷和博



インフルエンザワクチンの接種をしました。

今年もホーム入居の希望者される方対象でインフルエンザ予防接種に行きました。大体4～5人ずつに分かれて病院へ乗り合わせていくのですが、接種までの待ち時間も色んな過ごし方があります。「注射なんか余裕！」と何事もなく受けられる人や、接種を涙目や緊張した面持ちで待つ人など。余裕の人の中には待合室に置いてある病院の機関誌を上から下まで順番に読破して過ごされている方もいます。毎年一緒に行くのですが、その光景をみて“あ～今年も冬が近づいてきているんだなあ”と実感します。今年も元気にこの冬を乗り切りたいと思います。

文責：竹田悦子

ふゆーちゃー NEWS



季節外れの花火大会

夏の終わりに各ホームで花火をしました。

ちょっと怖くて恐る恐る花火を持つ仲間や、上に挙げて持ったりと、それぞれのやり方で楽しみました。



「障害者ビジネス」を放置する国の責任は重大! その2

重度、高齢となった障害のある人たち向けに制度化された「日中支援型グループホーム」が、住宅メーカーや不動産業界、さらに融資する銀行と一体になって、もうけのターゲットになっていった事件を前回取り上げました。奈良市でも、ここ数年でグループホームは17か所から53か所に急増。市内で新たに開設されたホームのうち、32か所は株式会社等の運営です。今や暮らしの場の主体は社会福祉法人や非営利NPOから大きく様変わりしました。

■ビジネスのお手本は介護保険事業。不動産投資にまで

今や日中支援型グループホーム建設は商品化され「不動産投資」の対象になっている実態もあります。以前から有料老人ホームが投資の対象になってはいましたが、障害者の日中支援型グループホームは入居年齢がより若く、長期利用する暮らしの場。何より公費割合が高く、投資家には利益率の高い「最良のビジネスモデル」なのでしょう。全国で急拡大した「恵グループ」不正・虐待事件の背景には、介護・福祉を専門にした不正な経営コンサルタントの存在

もあるようです。

■止まらない障害福祉の市場化。障害のある人たちの「人権」を守れ。

この後も、精神科の訪問看護最大手「ファーストナース（18都県240か所で運営）」の不正・過剰請求が報道されています。訪問看護分野も医療法人以外の株式会社等が参入し急増しています。一方、就労継続A型事業所は、相次ぐ閉鎖で数か月で300人もの障害者が解雇されました。公費が減って「儲からなければ撤退する」営利企業の姿が、大きく表れています。

企業参入によって、奈良県北部は、障害者事業所ラッシュが続いています。でも支援の質は伴っているか？人権が守られる実践は保障されているか？多くの事業所や、関係者と関わる立場にある相談支援だからこそ、求められることは大きいと考えます。制度のそのものの在り方を障害者権利条約をベースに改革していかないとはいけません。

はじめてこっから祭りに関わって

こっから NEWS

私は今年の2月初旬からこっからにて就業させていただいているということもあり、今年が初めてのこっから祭の参加となりました。祭り前日は雨模様だったということもあり当日は少し緊張していたのですが、この日は日差しが暑いと感じるほどの晴天で自然と心が和らぎました。お祭りは終始和やかな様子で、なかま達も子ども達が遊んでいる様子や顔見知りの人を見つけては遊びに行くなど、普段とは違う時間の過ごし方をされていて、とても楽しそうにしておられました。

特に印象に残ったのは、ステージでなかまがダンスを披露してくれたことです。彼らがこの日のために一生懸命練習してきたことを知っていたので、そのパフォーマンスに彼らの努力の成果を感じ、無事披露し終えた時には感慨深いものを感じておりました。また今回の祭りを通じて、私自身なかま達との絆がより深まったと思いますし、地域の方達もなかま達との絆が深まったのではないかなと思っています。

初めての体験で最初は戸惑いましたが、なかまや地域の方達の温かさにも触れ、非常に心温まる時間を過ごすことができ、その経験自体が私にとって大きな財産となりました。

文責：茶端智久





こっから

第20回

祭





感想コメントを いただきました!

こぶしの会後援会 前田恵美

久しぶりにこっから祭に参加させていただきました。奈良東養護を転勤してからは、ずいぶんご無沙汰していました。奈良東の卒業生さんをはじめ、仲間みなさんやスタッフ、保護者みなさんに会い楽しい時間を過ごすことができました。楽しい会話からみなさんが毎日を充実して過ごされていることが伝わってきました。あいさつ、踊り、太鼓、模擬店など様々な場で主役として自分らしく活躍されていたのが印象的でした。

私は、教員になったばかりの頃にこっからを立ち上げるために活動されていた「かすが共同作業所」の皆さんと出会いました。大きな法人となっても、「人を大切にすること」「地域に根ざした存在」など当時から大切にされていた、ぬくもりと安心感のある居場所づくりがコロナ禍を越えて発展されてきたことをしみじみと感じたお祭りでした。これからもこぶしの会の皆さんとつながっていけたら幸せと感じています。

ステキな時間をありがとうございました。

ボランティア 山本奈津子

今年、初めてこっから祭りに参加させて頂きました。朝の準備には職員さんやなかまのご家族など、大勢の人が集まっておられ、こんなにもたくさんの方々がかっからの活動を支えておられるんだと感じました。中でも印象的だったのは、ご家族で楽しそうにお話しをされている姿や、親御さん同士でなかまのみなさんのことをお話しされている姿です。その温かい表情と集まったみなさんが一つになっている雰囲気、一緒に参加させて頂ける喜びを感じました。

お祭りが始まり、なかまと一緒に過ごしていると、「〇〇ちゃん、何にするー?」「今日は何食べたん?」など、いろいろな方がなかまに声をかけてくれました。隣にいる私までも嬉しくなるこうした周囲からの声かけが、なかまの安心した生活に繋がっているのだろーと思いました。

また、なかまの声を聞いていると、「たくさんのお客さんで大変だった!」と、いつもより興奮しながら、どこか嬉しそうに話していたり、からあげの話になると満面の笑みになったりと、普段の活動の時とはまた違った一面を見ることができました。なかまのことを知れた気がして、少し嬉しくなりました。

たくさんの方との関わりの中で得た、こっから祭りでの気づき。これからの活動に活かしていきたいと思います



8月

Topix



【ここに・すたあと】
大阪の沖縄料理屋さんへ



【すたあと】ブルーベリー狩り



【とうふ工房】
お出かけ焼肉ランチ



全障研全国大会IN奈良
レポート発表参加

9月



【くうべう】おこのみやき



【ここに・すたあと】
バッティングセンターへ

【ここに・すたあと】京都水族館



【紙すき】かき氷会



仲間夏祭り



仲間夏祭り



仲間夏祭り

10月



【ここに・すたあと】たんぼぼの家祭りへ



【すたあと】新しいお仕事



【とうふ工房】たこ焼き会



【すまいる2階】誕生日会



駐車場再整備工事完了

きょうされん全国大会 in 滋賀に参加して

今回のきょうされん大会は11月8日、9日の2日間、滋賀の草津で開催されました。滋賀県では「発達保障」の理念と実践が始まった地で、その元となった近江学園の歴史やきょうされん発足の成り立ち、震災時の障害のある方の権利保障について貴重なお話を聞かせていただきました。誰もが1人1人が他の人と共に生活し、関わりあうことでの発達保障は平和な世の中でしか成し得ないと言葉が強く印象に残りました。

来年、奈良大会に向けて、優生保護法、生活保護のいのちのとりで裁判、震災の復興支援など課題がある中、今自分に出来ることはこれらの課題を知り様々な人に伝えこれらの課題を知ってもらうことが大切と感じた2日間でした。

文責：楠本剛士

来年のきょうされん全国大会は奈良!

来年、いよいよ奈良初めての全国大会を開催することになりました。

2000人の参加目標を立て、大会資金作り、ボランティアあつめなどをはじめ、全体企画・特別企画、仲間の観光コースなど、さまざまな取り組みを考えています。また、行政にも協力を呼びかけています。大会を支えるため、ぜひお力をお貸しください。

*協賛金・広告協賛金のご協力を頂ける方や団体・企業をご紹介します。

*企画等に関わってくださる方、当日ボランティア参加の募集を行っています。

ご関心のある方は、下記までご連絡ください。

第48回きょうされん全国大会 in 奈良

はじめよう戦後80年から 咲かせようまんまの笑顔を
～みんなのチカラ 奈良の地から～

日時：2025年10月17日(金)～18日(土)

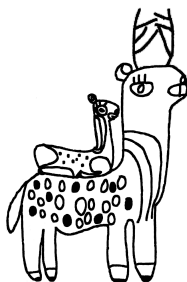
会場：奈良県コンベンションセンター



奈良大会実行委員会

(すたあと：島

mail : nara@kyosaren.or.jp)



もちつもたれつであれたら

11月4日、東市地区社会福祉協議会の役員さんより「東市地区 敬老の集い」へ臨席される方の送迎依頼をお受けしました。

仲間とともにこの地域で活動して23年。日々の活動を通して、役員の方々からのご依頼は私たちにとって大変光栄です。

ここで住む人の暮らしの中にある様々な困りごとを、地域の方々と私たちとが『もちつもたれつ』の関係性の中で解決していけたら嬉しいなと思った、よく晴れたあたたかく朗らかな1日でした。

文責：梅田玲輔



きょうされん第48回 国会請願署名・募金運動 ご協力のお願い

4月に障害福祉サービスの報酬改定が行われ、生活介護事業所は、「利用した時間によって報酬が増減する」仕組みになりました。短時間でも、こっからに来て、なかまや職員と共に過ごすことで人生を豊かに生きていくことができる仲間もいます。

ここに・すたあとでは、「はたらく」「たのしむ」を思いっきり取り組めるよう、様々な取り組みを行っています。グループホームでは安心して生活ができるよう一人一人の生活スタイルに寄り添った実践を行っています。

なかまが地域の中で輝き、職員がやりがいをもって働き続けられるように国に求める署名に、一人でも多くの皆様のご協力をお願いいたします。

表・紙・解・説

■絵のタイトル：

「虹の空を喜ぶうさぎ」

■作者：松田薫さん

いつも幻想的な背景にライオンやゾウなどいろんな動物を書くことが多く、完成された絵はとてもステキです。創作活動も仕事も楽しく、頑張っておられる薫さんです。



社会福祉法人こぶしの会では、事業拡大に伴い私たちと一緒に働いてくれる、正規職員(生活支援員) 非正規職員(生活支援員・グループホーム職員・送迎スタッフ)を募集しています。

■生活支援員(パート) 就労継続支援B型事業所 すたあと

支援内容	障害のある人たちとの仕事(清掃、除草、軽作業など)や生活(文化活動、健康維持、身辺自立など)のサポート
勤務時間	週1日～5日 8時45分～17時30分 休憩時間 45分 ※時短・勤務曜日の相談可
休日	基本、土・日・祝(月1回程度休日出勤あり)有給休暇(法定通り)
給与・手当	時給 1,010円(経験者 1,060円) 通勤手当 契約時間によって社会保険適用
契約期間	1年ごとの単年度契約
その他	車通勤可(駐車場無料)

地域とのつながりを大切にしながら、事業所内外で様々な仕事を行っています。

応募に当たって資格は特に問いません。福祉や介護の資格をお持ちでない方もぜひご応募ください。

■グループホーム支援員(非正規職員)

支援内容	グループホームでの生活全般(食事、入浴、整容等)の介助や見守り
勤務時間	16時～翌10時までの宿泊をともなう勤務 ※またはこの時間内で3～5時間で宿泊をともなわない勤務についても応相談
給与・手当	1,010円(経験者1,060円) 夜勤手当、通勤手当、業務手当 ※契約時間によって社会保険適用
必要資格	不問

求人は随時おこなっています。未経験の方も安心して働けるようサポートします。詳細・お問い合わせにつきましては、こっから/梅田(0742-63-6765)又は法人本部/藤井(0742-63-6504)までご連絡ください。

編集後記

今号の特集記事は5年ぶりに地域の方にも参加していただいた『こっから祭』(※詳細はそちらで)。今回の開催にあたってはとても嬉しい出来事がいくつかあったのですが、ここでは2つのエピソードをご紹介します。ひとつは、年度初めに地域の小学校から今年のこっから祭の日程を教えてくださいという問い合わせがあったこと。様々な事情で地域のイベントが中止や延期になる中で、子どもたちが楽しみにしているこっから祭と学校行事が重ならないようにという申し出でした。そんな嬉しいことを言っていたら、これはもうやるしかないじゃないですか、ねえ。

ふたつめはリサイクルバザーに関わる出来事です。ある日段ボールの郵便物がこっからに届きました。中身は日用品やボードゲームなどの品物がたくさん。送り主の住所は京都。実はその数日前にバザー用品提供の問い合わせがあり、その方が郵送で送ってくださったのです。初めて見るお名前に直接お礼をと電話でお話をさせていただきました。家の不用品をどこかで活用してもらえないかと施設・バザーを近隣でネット検索した

ところこっから祭に繋がってくださったそうです。「最近は福祉施設のバザーも少なくなりましたね。みなさんお仕事忙しいんでしょうね」という鋭い指摘もいただきながら、なんと以前からきょうされんのTOMO市をご利用くださっていたとのこと。最近は被災地支援ショップから能登半島地震被災作業所の商品を購入してはご近所に配ったりされていたそうです。こぶしの会のホームページからこぶし通信も読んでくださって「利用者さんの自治会活動をされているのは素晴らしいですね」と嬉しいご感想もいただきました。他にも色々なお話を聞きながら素敵なご縁に感謝しました。今回、FacebookやInstagramで広報担当が連日こっから祭の投稿を頑張ってくれました。こぶしの会らしさを発信すれば、それに共感してくれる人に繋がっていく。改めてそのことを強く感じる事ができた第20回こっから祭でした。今年もたくさんの皆様のご支援とご協力をありがとうございました。来年も引き続きよろしくお願ひ申し上げます。

文責：古木一夫

こちらも
ご覧ください

<http://kokkara.jp/>

・ネットショップ ・活動ブログ
・ニュースブログもお楽しみ下さい。



こっから facebook